



ソバナ保育所(バットアンバン州) © 小林正典



認定NPO法人
幼い難民を考える会
CARING FOR YOUNG REFUGEES

2009年9月
NO.91

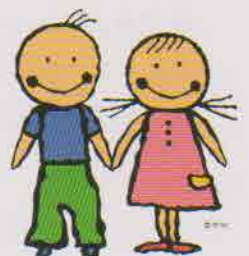
Children, Our Future

子どもたちの明日

目次

カンボジア駐在スタッフ報告会・記録 関口晴美&山極小枝子	-----	2
新DVD「スラムで暮らす子どもたち」完成	-----	6
卒園児の「今」 チュン・リツケナーさん	-----	7
～連載～ 給食レシピ②「とり肉、にんじん、冬瓜の炒め物+ごはん」	-----	8

幼い難民を考える会(CYR)は、難民となったカンボジアの子どもたちがけんめいに生きようとする姿に触発され、1980年に組織されました。子どもたちが心身ともに健全に成長し、その親たちが人間らしい生活環境のもとで自立できることが、難民を出さない平和な社会につながることを信じ、復興をめざすカンボジアで活動を続けています。





関口



山極

2009年9月23日

カンボジア駐在スタッフ報告会・記録

関口晴美(事務所長) & 山極小枝子(保育専門家)

「スラムの子どもたちにとって、
小さな保育所が、どんなに役立っているかを
お伝えしたいです。」

おなかいっぱい食べられない 子どもたち

山極-----

カンボジアの首都プノンペンには、貧しい人たちが本当に増えています。3人に1人が、いわゆるスラムに住んでいると言われていますが、CYRIは、現地NGO「ケマラ」と協力して、ここに6つの保育所を開いています。今年で6年が経ちました。今日は、カンボジアのスラムに住む子どもたちにとって、小さな保育所が、どんなに役に立っているか…ということ、みなさまにお伝えしたいと思っています。

関口-----

2003年、プノンペンでは2つの保育所支援から始めました。その後、2007年と2008年に新たに2つずつ開いて、今は合計6ヶ所を支援しています。最初の2つをオープンした後、ここに暮らす子どもたちの家庭の様子を知りたいと思いましたので、約200軒の家庭訪問を行いました。これが2006年のことですね。その結果を見て、「ああ、これは保育所が必要だ」ということで、さらに4ヶ所増やしました。

保育所があるのは、プノンペンの中心から25kmくらい北にあるルセイケオ郡というところ。家庭調査もここで行いました。住む人たちの仕事の多くは、バイクタクシーや建設労働、日雇い労働、小商いなど。約半数が、1日1～2ドルの収入で暮らしていました。家族5、6人で食べていくのに本当に精一杯。日によっては十分に食べることもできないという状況でした。

自分の土地でないところに勝手に住んだり、川や道路の上に暮らす人たちもたくさんいました。プノンペンの中心に住んでいたけれども、追い出されて移ってきた人たちや、田舎で農業をしながら生活していたけれども食べられなくなったので、田んぼや土地を売ってプノンペンに仕事を求めて出てきた人にも会いました。

トイレがある家は半数以下ですね。子どもは本当に厳しい衛生状況の中で、食べるものも十分食べられずに、ほったらかされているという状況でした。

昨年度建てた保育所は、ローコンバオ村、スパイバ村というところにあります。ローコンバオ村では、多くの保護者の方が、レンガ工場できつい力仕事をしています。



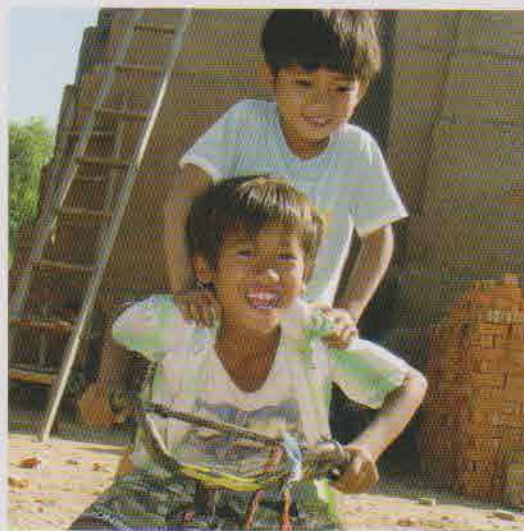
スパイバ村は、売春宿がある地域です。公には禁止されているのですが、中には収入のために隠れて仕事をせざるを得ない人もいました。

保育所のおかげで こんなに変わりました

山極-----

2007年に開いた保育所では、子どもたちの変化を見ていくために、全部で20人の子どもを選んで、定期的に調査をしています。今年の3月にも調べてみました。ここで分かったことは、たった1年半くらいの間に、20人中5人の子どもの家族が引越しをしたことです。保護者の仕事が変わったからとか、両親が工場で働きたいので田舎のおばあちゃんのところへ預けられてしまったとか、そういう理由でした。

子どもは親と一緒に動くわけですが、やっぱり親の生活がぎりぎりなので、その環境の変化に応じて子どもがあっちこっち引越しをしているという状況があると考えられます。



保護者に聞きました。 親の生活で変化したことは?

1. 仕事時間が増え、収入が上がった
2. 家事ができるようになった
3. 川に子どもが落ちる心配がなくなった
4. 人さらいにあう心配がなくなった
5. 家族が幸せで、あまり喧嘩をしなくなった

保護者の方に、「親の生活で変化したこと」を聞いてみました。1番目に『仕事の時間が増えて前より収入が増えた』2番目には『休みが取れるので家事ができるようになった』という答えがありました。本当にそうなんだろうな、と思うのは、保育所に納めていただいている給食費の納入率が上がっていることです。オープン当初に比べて、平均85%から92%と確かに上がりました。もちろん収入によるものだけではなく、保育園の大切さがだんだんと伝わってきたということもあると思います。

3番目。『家が川の上にあるので、保育所に預けている間は子どもが川に落ちる心配がなくなった。』この地域では雨季になると川の水がいっぱいになるんですね。実際に事故が起きるということを、時々

耳にします。

それから4番目、『人さらいの心配がなくなった』ということも聞きました。日本では馴染みがないかもしれませんが、親が子どもを売るということをカンボジアでは良く聞きます。そういうこととつながっているんだと思いますね。

5番目。『家族があまり喧嘩しなくなった』というのは、やっぱり1番、2番と関係があって、生活に少しでもゆとりができて、時間が取れてきたことの表れだと感じています。

保育所に通わせて、 お子さんが変化したことは?

1. やさしく明るくなった
2. 甘えるようになった
3. よくおしゃべりするようになった
4. 頭がよく、覚えることが多くなった
5. 丁寧に食べるようになった
6. 遊んだら片付けるようになった
7. 靴を靴箱に片付けるようになった
8. よく人の話を聞くようになった
9. 両親や目上の人を尊敬するようになった
10. 疑問質問が多くなった

「保育所に通わせてお子さんが変わったことは何ですか?」と聞いてみると、大体10個でできました。ここから私が感じたのは、去年も同じことを聞いた時には、「歌えるようになった」とか、「文字に興味をもった」とか、「挨拶をするようになった」とか、そんな意見だったんです。

でも1~10を見ると、ずいぶん具体的な答えが返ってくるようになりましたね。これは、だんだんと保育所の中身やその大事さについて親が理解してきて、自分の子どもへの関心も高くなってきた結果だと感じています。

4番目に『頭がよくなって、覚えられることが増えた』とありますが、これはカンボジアでは教科書がなかったり本がなかったりと教材が少ないので、「暗記」が教育の中ですごく取り入れられているんですね。だから子どもたちはよく物を覚えます。その点は日本も学ばなければと思います。

5番目なんかは、保育所でしつけ的なことをするようになったので、ずいぶん変わったし、お母さんたちもそれをみて喜んでいるんだと思います。

次ページに続く



先生に聞いてみました。 子どものことで困っていることは？

1. 勉強時間に遊んでいる
2. よく動きいたずらをする
3. 先生に口答えをする
4. 昼寝をしたがらない
5. 給食の野菜を食べない
6. 水浴びを嫌う

先生に、困っていることを聞いてみました。そうしたら、これは日本でも同じだなあと思ったのが、『勉強時間に遊んでいる』とか、『昼寝をしたがらない』とか。

ここの地域性が出たと思ったのは、6番目の水浴びを嫌うことです。CYRが別で支援している田舎の方の保育所では、水浴びを嫌がる子はいないんですね。家でも保育所でも日課だし、おとなにとっても何より嬉しい時間です。それは、気候がものすごく暑いので、昼休みには水浴びをしてから昼寝するというのが習慣になっています。

ここの子どもたちが水浴びを嫌うのは、家庭訪問をした時に感じたのですが、とにかく水がすごく貴重なので水浴びの経験が少ないんです。ですから慣れないのでしょね。

6年間続けて見えてきた この地域で必要な支援

1. 子どもが安心できる場所を地域につくる
2. 栄養のある十分な食べ物
3. 子どもの環境をつくれるおとなの養成
4. 保護者の子ども理解を深める
5. 地域のネットワークと協力

このような地域で必要とされている支援は、まずは『子どもたちが安心して過ごせる場所が近所にある』ということです。2番目に『栄養のある食べ物』ですが、本当に食事が足りないんですね。結婚式などをあちこちで見ますが、ビールや炭酸飲料などの空き缶がでますよね。その時に貧しい子どもたちがやってきて、

それを売るために拾っていくんです。本当に栄養のあるものが口に入っていないのが現状だと感じますね。

3番目は『子どもの環境をつくっていけるおとなを養成する』ということです。幼い子どもは、自分で生活環境をつくることができません。子どもに愛情を注いで、安心できる場所をつくってあげようという、余裕がない状況です。だから、一生懸命、先生の養成をがんばっています。でも、良い先生が育ってきたかなあと思うと、もっと給料の良い仕事に移動してしまう…。先生も生活に必死ですから、なかなか難しいですね。4番目は『保護者の子ども理解を深める』ということです。これも家庭訪問や保護者会をしながら進めているのですが、絶対にしなければいけないことだと思っています。

5番目に、地域のネットワークはやっばり大事で、村長さんとか地区長さんの協力や、学校への働きかけなどをやっついていかないと、私たちだけではうまくいきませんと考えています。



課題は？

1. 継続的資金確保
2. 幼児教育の必要性の理解
3. パートナーとの信頼関係の構築
4. 地域行政の協力
5. プロジェクトスタッフの目的意識

関口—————

最後に課題です。本当は、保育所を各村に1つずつ作りたいたというのが私たちの願いですが、実際にそれを続けていくのは大変です。まずは、そこで働く先生たちの給料をきちっと確保していかなければなりません。最近カンボジアでは、物価が急激に高騰しています。昨年、先生の給与は月50ドルでしたが、長く勤めていた人でも50ドルではやっていけないと言ってやめてしまいました。今年は月70ドルにしましたが、それでも生活が厳しいというのが本音だと思います。ですから、運営資金を確保していくことは、大きな課題です。

2番目には、『幼児教育の必要性が理解されること』これも時間がかかります。6年間続けてきて、ようやく保護者の方たちに「保育所があって良かった」と実感してもらえるようになりました。それを見てケマラの方たちも、「この支援は必要だったんだ」と感じるようになってきています。

3番目に『パートナーと信頼関係をつくること』。急にはできないので、予算の使い方、事業の運営方法などを、毎月打ち合わせをしながら少しずつ築いています。

4番目に『行政との協力』です。2003年、2007年に開いた保育所では、地域の村長さんや地区長さんがメンバーになっている保育所運営委員会ができています。新しく開いた保育所では、地域全体が貧しいという事情があるので、運営方法もそこに住む皆さんと一緒に考えていかないと、なかなか継続していけません。もっともっとこれから力を入れていかなければと思います。

最後に、OYRのスタッフも含めたプロジェクトに関わる全ての人たちが、常に「何で

保育支援が必要なのか？」という初心に戻って考えていくことが大切です。子どもの変化を実際に感じたり、保護者の方たちからの声を聞いたりすると、保育所が本当に大切なんだということが分かります。今年はそういったことをみんなで見直して、これからもできるだけ支援を続けていきたいと思っています。

1ヶ所の保育所にかかる1年間の運営資金は、大雑把に言うと100万円くらいです。100万円で50人くらいの子どもが保育所に通えます。これには、3人の先生の給料、研修会費、会議費、ケマラストッフの人件費、事務所の経費の全てが含まれます。また、別の村に新しく建てることになると、改築費のためにもう100万円プラスされて、初年度は合計200万円かかります。

村ごとに保育所を作りたくても、先のことを考えるとなかなか広げられないのが悩みです。ぜひみなさまには、引き続きのご支援をお願いいたします。

新DVD

「スラムで暮らす子どもたち」完成

都市の子どもたちの暮らしや、CYRが支援する保育所の様子を紹介するDVDが完成しました。映像の一部をお届けします。



プノンペン市内の風景
経済成長で、街は大きく変貌



700ヶ所以上もあるスラム



忙しく働くお母さん
子どもの将来を考える余裕がありません



ナロアくん、5歳
レンガ工場の敷地に住んでいます



ナロアくんのお父さんとお母さん
レンガ工場で、辛い仕事をしています



不衛生な生活環境で暮らしています



ナロアは、私たちがたいにならない
ようにしたいです
「子どもには自分と同じ人生を歩んで
ほしくない」と語る両親



ナロアくんも通う
ローコンパオ保育所



保育所の給食

DVD発売中

「5歳の笑顔が未来をつくる」

※「スラムで暮らす子どもたち」他2本付き

- ・「スラムで暮らす子どもたち」(9分)
- ・「CYR活動紹介」(17分)
- ・「カンボジア、農村の子どもの暮らし」(8分)



- 価格 1,000円 ※会員の方は1枚無料
- 送料・手数料 200円



日本の方の正確性にはとても感謝しています
これからも活動へのご支援をお願いします
パートナーの現地NGOスタッフ
インタビュー



5歳の笑顔が、未来をつかっていく

お申込はCYRまで
TEL: 03-3943-6971 E-mail: info@cyr.or.jp

制作協力: 妙画社-MAXIMEDIA

卒園児の「今」

CYRがカンボジアで保育所を開いてから17年。第一期卒園児は20歳を超えるようになりました。2002年、2004年に引き続き、3回目の卒園児調査を行いました。前回と比べて、中学就学率は1.4倍に、高校は5倍以上に増え、地域での教育に対する意識の変化が伺えます。

今回は、大きなニュースがありました。地方の高校就学率がわずか6.1%の中、大学を目指している卒園児がいたのです。貧困を抱え、高等教育まで受けるのがとても厳しい状況に置かれながら必死で勉強に励んでいる卒園児を、連載で紹介します。

看護師の夢をあきらめられなかった。

お母さん

子どもの希望を叶えてあげたい



子ユン・リッケナーさん(19歳)
'95年バンキアン保育所卒園

リッケナーさん-----

カンボジアでは、病気が流行っているし、事故もたくさん発生しています。だから、国の将来のために看護師になりたいです。そして、自分の生活も豊かにしたい。看護師になるためには学費がとても高いです。他の専攻にしようと思ったこともありますが、どうしてもあきらめられませんでした。

お母さん-----

苦労は多いけれど、子どものやりたいようにさせてあげたいですね。たとえ何を失ったとしても、子どもの希望はどうか叶えてあげたいです。学費は高いですが、内戦後に自分たちで購入した2つの田んぼのうち、1つを売れば2,000~3,000ドルくらいにはなりますので、それで何とかします。親戚から借金もするつもりです。リッケナーに教育を受けさせて自立できるようになったら、今度は自分たちの面倒をみてもらいたいですね。私が子どもの頃は、内戦中でしたので小学校もろくに通えませんでした。文字もお寺で習ったので、読むのがやっとです。

家族構成と仕事

- 父 軍隊病院の看護師
- 母 農業
- 兄(28) 冷蔵庫の修理屋
- 兄(25) 農業
- 姉(22) 大学で看護学専攻
- 本人(19) 受験勉強中
- 妹(16) 中学生



自宅で勉強

給食レシピ②

とり肉、にんじん、冬瓜の炒め物+ごはん

カンボジアの子どもたちが食べている給食のレシピを、連載でご紹介します。
ぜひ作ってみてください♪



とり肉、にんじん、冬瓜の炒め物
+ごはん



食品の栄養の働きについて学ぶ



給食の試作



おいし〜

©川林正典

材料 (5人分)

とり胸肉	175g
にんじん	100g
冬瓜	300g
マッシュルーム	25g
サラダ油	小さじ1
にんにく	2かけ
ねぎ	少々
米	5人分
ナンブラー	大さじ1
やし砂糖	小さじ1
塩	小さじ1/2

■ 下準備

1. にんじんと冬瓜を、太めの千切りにする
2. とり肉を、食べやすい大きさに切る
3. マッシュルームを、たて4つに切る
4. にんにくを、みじん切りにする
5. ねぎを、みじん切りにする

■ 作り方

1. フライパンに油を引き、にんにくを入れてよく炒める
2. とり肉を炒める
3. やし砂糖をなべの中央に入れて溶かし、肉と混ぜる
4. にんじんを炒める
5. 冬瓜を炒める
6. ナンブラー、塩で味付けする
7. マッシュルームを入れて混ぜる
8. ねぎを入れてできあがり。ごはんといっしょに食べる

カンボジアには、給食が提供される幼稚園・小学校はほとんどありません。CYRは、子どもたちの成長を支えるメニューを考えています。今年度は、調理担当の方や先生たちを対象に、栄養ワークショップを開いています。給食を開始した当初は、砂糖と塩を大量に入れる習慣がありました。今では、食材から味が充分にでることも理解されました。子どもたちにも好評です。
このメニューは、1人分、約20円！みなさまからの給食募金で作られています。

CYRの活動を支援してください

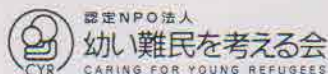
年会費 正会員 ¥10,000 学生会員 ¥3,000 団体会員 ¥30,000

下記の口座にご送金ください。

■ 郵便局 No.00110-8-36227 (特活)幼い難民を考える会

■ 銀行 三菱東京UFJ銀行六本木支店 (普)No.1351747 特定非営利活動法人 幼い難民を考える会

※CYRは認定NPO法人です。5,000円を超えるご寄付は寄付金控除の対象となります。



〒112-0013 東京都文京区音羽1-10-4 池田ビル3F
TEL: 03-3943-6971 FAX: 03-3943-6973
Email: info@cyr.or.jp URL: http://www.cyr.or.jp

子どもたちの明日91号
◆発行日:2009年9月5日
◆発行人:深水正勝